

巻頭言

『日常の五心』を持ち続けて

更埴教育会長 宮本 隆

昨年度私は、更埴地区初任者研修会の担当となり、初任者の先生方と一緒に研修を受ける機会に恵まれました。最初の研修会では千曲市坂城町のお二人の教育長先生からお話を伺いましたが、その中で『日常の五心』のお話がありました。「はい」という素直な心 「すいません」という反省の心 「私がします」という奉仕の心 「おかげさま」という謙虚な心 「ありがとう」という感謝の心 この『日常の五心』について、遠い昔、そういえば自分も新卒で屋代小学校にお世話になっている時に、当時の校長先生か教頭先生に言われたことがあったとうっすら覚えていました。しかし教員生活を長く続けているうちに、この言葉は大切だし、どんどん言いたいのに、なかなかこの言葉が自然に出てこなくなっている自分に時々気づくのです。お話をお聞きしながら、これは自分に言われているのだと自戒しながら、今までの教員生活を振り返っていました。

初任から36年がたち、教育現場も大きく変わりました。特に学習場面では一人一台端末が導入されたことにより、学習スタイルが一変しました。先生たちはこれまでの学習観からの転換が求められています。予測困難な、新たな時代を生きる子どもたちに必要な教育は何か。そのあり方を自ら求め、研究・研修する教師でなければいけません。

更埴教育会では、その時々々の社会要請や教育改革に的確に応えるために、会員相互が英知を出し合い、研鑽を積んできたという伝統があります。さまざまな諸課題を前にし、今まさに英知を出し合い、研鑽を積むことの必要性に迫られているのではないのでしょうか。「教育を語る会」や「教育研究集会」「各種研究調査委員会」「全郡研究会」「教育研究会」などの運営を工夫し、教育課題を共有し、その課題解決に向けて連携し協働していきたいと考えています。

時代や社会の変化の中で、新しい教育内容や方法を求めつつも、私たちは子どもとともにある教師であることを忘れてはなりません。常に子どもたちに軸足を置きながら、私たちの使命感を持ち続けたいところです。そしてその根底に、『日常の五心』も常に持ち続ける教職員集団でありたいです。

教育会の事業・研修を通して、学校や世代の枠を超えてつながり合い、共に学び合うなかで自己を見返し、新たな発見や確かな学びを感じ、参加してよかった、楽しかったという思いをもち、共に高め合っていく。そしてそれらを次につなげていく。そんな更埴教育会になることを願っています。